

第4章 耳取遺跡の現状と課題

前章に掲げた構成要素について、「保存管理」・「活用・整備」・「運営・体制」の項目ごとに、現状と課題を以下のとおりまとめた。

第1節 保存管理の現状と課題

(1) 現状

- ①史跡指定地は公有地化を進めているが、大部分が民有地となっている。
- ②耳取遺跡のある丘陵地は崩落しやすい土壌であり、西側及び東側斜面部では崩落跡が見られる。
- ③動植物の貴重種が29種分布する。

(2) 課題

- ①保護のための公有地化を進める必要がある。
- ②保護盛土など雨水で地上の土壌が流出しない対策が必要である。
- ③生息環境の保護や採取防止のための対策が必要である。

第2節 活用・整備の現状と課題

(1) 現状

- ①管理用道路は、幅員が狭く急勾配なためアクセスがしにくい。
- ②史跡地内までは3ルート of 里道があるが管理された状態となっていない。
- ③耳取遺跡に関する情報提供はみつけ伝承館で行っており、史跡指定地の周辺にガイダンス施設やトイレなどの便益施設がない。
- ④現地には解説サインがなく遺跡の内容が分からない。
- ⑤縄文時代の風景をイメージできる空間となっていない。
- ⑥調査成果を用いた社会教育や生涯学習活動が希薄である。
- ⑦各年代に応じた学校教育との連携が不十分である。



写真 4-1 史跡指定地内の状況



写真 4-2 管理用道路の現況



写真 4-3 北西側の里道の現況

(2) 課題

- ①-1 管理用道路の整備にあたっては、利用しやすさおよび遺跡の保存に配慮する必要がある。
- ①-2 周辺の遺跡や自然環境にできるだけ影響のないようにする必要がある。
- ②里道の整備にあたっては、日常的な利用のしやすさに配慮する必要がある。
- ③効果的な情報提供をするためには、史跡指定地の周辺にガイダンス施設及び便益施設が必要である。
- ④解説サインやデジタル端末などによる遺跡の情報提供が必要である。
- ⑤縄文時代の風景や眺望を想起できる整備をする必要がある。
- ⑥公民館などでの生涯学習講座と連携が必要である。
- ⑦学校での総合的な学習等との連携が必要である。



写真 4-4 北西の麓にある解説サイン

第3節 運営・体制の現状と課題

(1) 現状

- ①スマートウェルネスシティ構想（p.10）による、健幸のウォーキングコースが耳取山周辺に整備されている。
- ②ワークショップ等が開催され、地域住民の協力体制が検討されている。

(2) 課題

- ①既存の施設や計画と連携した運営が求められる。
- ②身近に触れられる遺跡として管理・運営への住民参加が求められる。



図 4-1 健幸マップ（スマートウェルネスシティ構想）